



5-4-29, Minami-aoyama, Minato-ku, Tokyo JAPAN 107-0062  
TEL: +81(3)3498-6220 FAX: +81(3)3498-6221 <http://www.abest21.org/>

THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW, a 21st century organization

ABEST21ACC121127  
2012年11月28日

関西学院大学長  
井上琢智殿

ABEST21 理事長  
伊藤文雄



2011年度「実行計画履行状況報告」の評価について

拝啓 深秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より ABEST21 認証評価活動に格別のご高配を賜り、誠に有難く感謝申し上げます。

さて、貴校よりご提出いただきました 2011 年度「実行計画履行状況報告」は、ABEST21 実行計画履行状況報告評価委員会で検討され、2012 年 11 月 2 日開催の 2012 年度 Peer Review Committee で承認されましたので、添付のとおり「実行計画履行状況報告評価」をご通知申し上げます。「実行計画履行状況報告評価」は、貴校のマネジメント教育の質維持向上が着実に進行していることの証しでありますので、これを広くステークホルダーに公表していきたいと考えています。

尚、2013 年 5 月 31 日（金）に提出いただきます「実行計画履行状況報告」の詳細につきましては後日改めてご案内いたします。

敬具

## 2011年度実行計画履行状況報告に対する評価

認証校名：関西学院大学大学院経営戦略研究科経営戦略専攻

## 1. 企業経営戦略コース

1	実行計画	<p>ジェネラリスト教育に基づいたカリキュラム編成          本ビジネススクールの人材育成上の目標の一つであるジェネラリストの養成のためには、コア科目、ベーシック科目の充実が必要となるだろう。そこで、コア科目、ベーシック科目における必修科目の修正を行う。また、入学前の学力のレベルアップを図り、コア科目等の円滑な授業開始を可能にする施策を検討する。具体的には以下の通りである。          企業倫理を必修科目とする。英語コミュニケーション、経済学、経営学、統計学、会計学のコア5科目を選択必修科目とし、最低4科目を選択するようにする。          企業経営戦略コースにおいて、各プログラム選択者に必修となっているベーシック科目を全員に必修とするよう検討する。このことにより、多様な分野についてのより深い理解が得られ、プログラム間の履修者の偏りが緩和されることが期待できる。          ロジカルシンキングをベーシック科目として開講する。          基礎数学やコンピュータリテラシのような科目について入学前教育を実施することで、入学後の学習が円滑に進むようにする。</p>
	履行状況	<p>コア科目およびベーシック科目を充実させる検討を引き続き行ったほか、今年度は新たに、学生の入学前の学力のレベルアップを図り、コア科目等の円滑な授業開始を可能にするため、「プレコース」を実施した。          具体的には、企業経営戦略コースにおいて、各プログラム選択者に必修となっているベーシック科目を全員に必修とする方向で引き続き検討を行ったが結論を得るに至らず、継続して検討することとなった。          また、2011年度秋入学者を対象に、入学前の時期に、基礎数学、コンピュータリテラシ、および、簿記会計についての入学前教育（プレコース）を実施した。</p>
	評価	<p>実行計画に従い、ジェネラリスト教育に基づいたカリキュラム編成が計画通り実行されていると評価する。</p>
2	実行計画	<p>修了年限を中心とした変更          現在の修了年限の規定は2つの点で問題がある。まず、1年半修了の学生が十分な学習量を確保できていないのではないかという点である。2つめは多忙なビジネスパーソンにとって現状でも2年間での修了は困難であるという点である。そこで、以下の4つの施策を検討する。          (1) 2年修了を基本とし、早期修了については履修単位数制限の強化やGPAの最低条件を設ける。          (2) 3年修了を基本としたゆとりを持って学習できるコースを設ける。授業料は2年間並みとする。          (3) 土曜日もしくは土曜日・日曜日のみで修了可能なコースを設置する。          (4) ネット上での授業を可能にするなど通学の負担を減らす。</p>
	履行状況	<p>実行計画に示した4つの施策のうち(1)については、2012年度入学生より、入学時の申請によってのみ、早期修了(修業年限や在学期間の短縮)が可能にすることにした。また、全科目について成績を厳格化することにした。これらにより、安易な早期修了をなくし、学生が修了までの履修計画をき</p>

		ちんと練り、十分な学習量を確保することが期待され、その効果は、2012年秋学期以降に出ると考えられる。 (2)に関しては、コース設置までは至っていないが、学内財務部と調整の上、2012年度入学者より、入学時において明らかに2年を超えて修学せざるを得ないことが判明している者については、入学時の申し出により別途定める学費納入方式にて学費を納入可能とすることが決まった。(3)、(4)については、継続課題となっている。
	評価	実行計画に従い、4施策のうち2施策が計画通り実行され、3と4の施策が継続課題となっているので今後の履行を期待する。
3	実行計画	図書資料の充実 大阪梅田キャンパスの図書資料室においては、蔵書冊数および図書の紛失において問題が認められた。そこで、以下の点についての解決策を実施していく。 (1) 図書の効率的な管理体制について検討する。 (2) 上ヶ原の大学図書館との役割分担を考慮し、梅田に蔵書する図書の収集方針を決める。 (3) 教員による選書を定期的実施する。
	履行状況	(1) 蔵書冊数が年々増加してきたため、図書資料のデータ化をはかり、2つのキャンパスそれぞれにどの図書資料が管理されているかを把握できるようにした。 (2) 引き続き、2010年度に定めた優先順位において選書を行っている。なお、最優先としていた洋書テキストについては、図書の充実に伴い国際経営コースの教科書を対象を絞り選書を行っている。 (3) 研究科の教員で組織される図書資料委員による選書を行っている。
	評価	実行計画に従い、図書資料の充実が計画通り実行されていると評価する。
4	実行計画	成績評価の厳格化および成績不良者への対応 成績評価のバラツキを是正するために、評価が極端に高い（もしくは低い）科目について、FD活動の一環として、その要因を分析するとともに成績評価の妥当性を検討する。そして改善された成績評価により学生の個人の成績を教員間で確認するために、専攻会議にて定期的に成績不良者（入学後半年のGPAが一定の値以下の者）の学業成績を確認し、必要であれば教務学生委員が個別に面談するなどの施策を付すためのプロセスを確立する。また課題研究の申込時に学業成績データを添えることで、教員による学生の選択基準として活用する。
	履行状況	本年度も昨年度に引き続き成績の厳格化に対応した。相対評価の導入も検討したが、少人数クラスにおいて妥当な評価ができなくなるとの問題点が指摘されたために見送られた。その代わりに、より一層の成績評価の厳格化を実施することとした。その結果、GPAは昨年度と同程度(2.63)であったが、バラツキが大きくなり(標準偏差: 0.99→1.13)、また最頻値もAからB+となり、より正規分布に近い形となった。さらに不合格率は7.2%から10.7%と拡大し、成績厳格化が大幅に進んだと言える。今後も、本年度と同程度の成績評価を維持するよう努める。また、成績の厳格化を進める一方で、成績不良者への面談を実施することとした。ただし、本年度は成績不良者がいなかったため面談は実施されなかった。
	評価	実行計画に従い、成績評価の厳格化および成績不良者への対応が計画通り実行されていると評価する。
5	実行計画	任期制実務家教員の確保 任期制実務家教員の採用が困難であるという問題について、採用時期の分散の可能性について検討し、また組織的なリクルーティング活動に取り組むなど継続的に優れた人材の採用活動に力を入れる。

履行状況	2012年度から2013年度にかけて、企業経営戦略の2名の任期制実務家教員が、そして国際経営コースの1名の任期制実務家教員が任期満了を迎える。そのため、2011年度から後任の優秀な任期制実務家教員を確保するため、それぞれ専門分野の教員3名から構成される3チームの後任教員サーチ委員会を設置し、有望な後任教員の探索を行い、数名の候補をリストアップしている。2012年度に、実際に後任教員の選定作業に入る予定である。
評価	実行計画に従い、任期制実務家教員の確保が計画通り実行されていると評価する。

## 2. 国際経営コース

1	実行計画	各プログラム内でのコア・ベーシック・アドバンストの各科目間の連続性や一貫性 現在、国際経営コースでは、各プログラム内でのコア・ベーシック・アドバンストの各科目間の連続性や一貫性に改善の余地があると認識している。こうした課題の解決のためには、今後、カリキュラムの構成やオリエンテーションの在り方に関し、今まで以上に、今後本格的議論を重ねていく必要があると考える。国内外の主要なデイトタイムMBAカリキュラムと比較検討しながら、本ビジネススクールの国際経営コースにおけるグローバル・ビジネス・パーソン教育に最もふさわしいカリキュラムを広範な調査・分析を基に慎重に再構築していく。この調査・分析は2009年10月から2年半のスパンでスタートする「大学間連携戦略」における関西学院大学ビジネススクール担当の国際ビジネス教育支援プロジェクトの一環として実行される。
	履行状況	科目間の一貫性： 2010年度の履修状況の結果に従い、引き続き学生が履修モデルに沿って履修するよう、入学時のオリエンテーションだけでなく、2年間の在籍中も度々学生に履修指導をしている。この履修モデルについては、ホームページにも掲載している。3つの専門プログラムの各担当教員も、専攻科目の履修に際して学生に確認し、学生達がアドバンスト科目を履修するための基礎的土台となるコア・ベーシック科目を既に履修済みかを判断している。2010年度専任教員担当科目のシラバスを分野ごとに検証することが目標であったが、現在継続中である。
	評価	実行計画に従い、科目間の一貫性の課題が改善され今後のなお一層の進展を期待する。
2	実行計画	入学前準備プログラム 国際経営コースにおいては、オリエンテーションは全体として目的を達成しているが、プレエンrollment(準備)プログラムに関しては各年度の入学時の諸事情に左右されており、必ずしも制度に基づいて組織的に実行されているとはいえない。今後どのように新入学生に早くコースに馴染ませるか、制約を超えてプレエンrollmentプログラムを定着化させるかどうかを検討する。 短期的には学生ニーズと制約を基に正規オリエンテーションの中で準備プログラムを構築する。中期的には、プレエンrollment・プログラムに関する広範な調査・分析を基に慎重に再構築し、実行していく。この調査・分析は「大学間連携戦略」プロジェクトの一環として実行される。
	履行状況	入学前準備プログラム： 国際経営コースでは、入学予定者に対して入学前のプレ・エンrollmentプログラムは慎重に評価・検討中であり実施していない。多種多様なバックグラウンドをもった新入生のニーズを満たさない可能性があることと、時間的な問題や、教える教員の確保などの問題などの課題を解決しな

		なければならない。
	評価	実行計画の国際経営コースの入学前準備プログラムについて今後の進展を期待する。
3	実行計画	成績評価の偏向の是正 国際経営コースにおける成績評価のA評価以上への偏向は、早急に改善されるべきである。この計画の実行は主に本ビジネススクールの専攻会議、FD委員会、執行部のイニシャティブで容易に早期に実現されるべき課題である。実現後は、学期ごと教務学生委員と教務学生副委員の責任でモニタリングを行うことを制度化する。
	履行状況	授業科目の成績評価： 成績厳格化の方針は、研究科長より、専任と専任以外の全教員に対して、レターでもって成績厳格化の指示がなされた。今後も成績評価に関して注意してコントロールしていく方針である。
	評価	実行計画に従い、成績評価の偏向是正の課題が計画通り実施されているが、体系化されることが望まれる。
4	実行計画	英語による学習支援環境の構築 国際経営コースに所属する日本語ができない学生のために、英語専用のコンピュータ端末を一定数用意し、また掲示板や授業連絡ボードなどの情報システムを英語版と併用できるように大学に要請し、日本語を解する学生との情報格差を低減させるべく英語による学習支援環境の充実を図っていく。
	履行状況	外国人留学生のグループワークやディスカッションを促進するための多目的室（以下、グループディスカッションルーム）の利用者数増加に伴い、室内に常設PCを8台（英語専用2台を含む）追加した。それまでは、室内でPCを使用する場合、別途貸出用の英語PCを持ち込む必要があったが、常設PC設置によりこの手続きが不要となったため、よりグループディスカッションルームを利用しやすい環境が整ったといえる。
	評価	実行計画に従い、英語による学習支援環境の構築が計画通り実行されていると評価する。
5	実行計画	留学生に対するキャリアサービスの改善 本課題は、全学の国際化（英語授業と多くの留学生を擁す国際学部の2010年度開設）の流れのなかで、学内キャリアセンターおよび留学生プログラムを管轄するCIECとの調整を通して解消させる。国際経営コースは、英語によるキャリアサービスと日本語語学プログラムへの柔軟な対応の実現時期を2011年～2012年として、そのために必要な学内調整を本専門職大学院執行部と国際学部を巻き込んで行う。留学生に不利益が発生しないよう、英語でのサービスの早期実現を図る。
	履行状況	2011年度中に、キャリアセンターと本研究科執行部にて、外国人留学生の進路状況等の情報共有および懇談の場を設けた。また2011年4月の日本語教育センター設置に伴い、学生が正規科目として日本語科目を履修・学習する機会を提供することが可能となった。全学的な英語対応の拡大と並行して、外国人留学生の日本語能力向上は本学修了後のキャリアの選択肢を広げる上でも意義があると認識している。
	評価	実行計画に従い、留学生に対するキャリアサービスの改善が計画通り実行されていると評価する。
6	実行計画	定員充足 本課題は、全学の国際化の流れのなかで、学内入学者の確保が可能となり、2013年から2014年までに解消させる。国際経営コースでは、その時期と年当たり5名の推薦入学の制度化の合意を新学部から取り付けている。また、少なくとも2014年までに、他学部との合意を実現させる計画である。

	履行状況	定員充足： 2011年においても、年間30名の定員を満たしていない。従って、学部への学内説明会、日経進学相談会、日本語学校での説明会、など学生確保のための募集活動など継続的に行っている。また、海外向けの広報ツールとしてプロモーションビデオを完成させた。今後、本研究科のHPだけでなく、SNSやYouTubeなどで配信していく予定である。学内向けには、クラス見学などを行い、国際経営コースの認知度を上げる努力を行っている。
	評価	実行計画に従い、国際経営コースの定員充足を図ることについては今後の進展を期待する。
7	実行計画	教員採用 国際経営コースの専任教員の採用に関しては、現在も広く公募している。海外からの応募もあるが、業務を遂行する上で、ある程度の日本語コミュニケーション能力が必要不可欠であるため、なかなか本学が要求する要件を満たす候補者が見つからないのが現状である。しかし、本学の教育のレベルを維持するためには、質の高い教員の確保は必要不可欠である。当面は既に退職した教員と海外の著名な客員教授の協力を仰ぎつつ、引き続き広く公募をしながら候補者を選択していく。国際経営コースの充実を図るため、2009年4月からファイナンス・プログラムで准教授1名と9月からマーケティング・プログラムの准教授1名を任期制教員として任用した(両名とも一定の研究教育実績を上げることによって任期の定めのない教員になることができる)。この2名の新規任用により、授業時間数の問題も緩和されるが、引き続き、授業負担のバランスを図るため、客員教授や非常勤教員の確保を行なっていく。
	履行状況	国際経営コースでは、finance分野の専任教員を一人採用することが決まり、2012年4月に任用することとなった。
	評価	実行計画に従い、教員採用が著実に実行されていると評価する。

### 3. 国際経営コースと企業戦略コースの連携

1	実行計画	<p>国際経営コースと企業経営戦略コースの連携</p> <p>本ビジネススクールの大きな特徴の一つは、社会人を対象とする企業経営戦略コースと全ての授業を英語で行う国際経営コースの2つのコースを擁していることである。これら2つのコースがお互いに良い影響を与えればよいが、対象学生のバックグラウンドは大きく異なり、また国際経営コースでは全ての授業が英語で行われるため、二つのコースの連携は困難を極める。</p> <p>そのような中でも、2つのコースが効果的に連携することによりシナジーを追求しなければならない。連携の内容に目を向けると、教育資源(教員や教材)の共通化および学生交流に大きく分けることができ、それぞれについて一歩ずつでも有効な施策を継続的に進めて行く必要がある。そこで以下に示す戦略的大学連携プログラムを通じた取り組みを計画している。</p> <p>戦略的大学連携プログラムの実施</p> <p>2009年度から開始された戦略的大学間連携プログラムにおいて、授業で利用されるケースを日本語と英語で作成し、両コースの学生に教育する企画を立てている。両コースに所属する日本人学生や留学生などが混じり合って授業を受けることで英語、日本語による教育の長所、短所を調査する。こうした機会を設けていくことで双方のコースにとってよりよい学習基盤が蓄積されるものと考えている。</p>
	履行状況	2011年度から実施しているハイブリッドコースの提供科目としてファイナンス分野の授業を実施した。履修者は19名、企業経営コースの学生と国際経営コースの学生がほぼ半々の受講で、両コースの学生から非常に高い評

	<p>価を受けた。ケース討論の際の事前のグループワーク等でも、意図的に留学生と企業経営コースの学生を混合させることにより、学生同士のコミュニケーションも活発になったようだ。その結果、授業に意欲的に取り組む学生が増え、レクチャースタイルの授業では期待できない教育効果があったと認識している。教員が感じる教育効果と、学生のフィードバックによる満足度が高かったので、2012年度はハイブリッドコースの提供科目を増やすことを決めた。2012年度にはマーケティング分野とテクノロジーマネジメント分野から一科目ずつハイブリッド科目を提供し、合計3科目の提供をはじめる。</p>
評価	<p>実行計画に従い、国際経営コースと企業経営戦略コースの連携が著実に実行されていると評価する。</p>